

# 写真が語る「いわき」の歴史



## 疲弊を救った交通体系整備など

好間地区には昭和30年代まで数多くの炭鉱が存在し、石炭産業が盛んでした。人口のピークは昭和28（1953）年3月の2万2644人で、当時日本で最も人口の多い村として知られていました（昭和41年にいわき市）。しかし、昭和40年代以降、石炭産業が壊滅的な状態となると、将来が懸念されました。

転機は昭和50年代に訪れます。きっかけは、大都市における公害や過疎・



写真を上下に通じる常磐自動車道とトンネル上に位置する「いわき好間中核工業団地」  
〔平成26（2014）年12月 いわき市撮影〕

過密などの是正策として昭和47（1972）年6月に制定された「工業再配置促進法」でした。いわき市は「誘導地域」に指定されたことから、工業団地の建設を要望しました。

工場適地について調査・検討の結果、好間町と平赤井の丘陵地が選定されました。この地が選ばれた最大の理由は、交通体系の整備でした。「常磐自動車道」日立市ーいわき市区間の終点が丘陵地の近くに設置されることになったからです。この終点は、国道49号と交差する交通要所にも当たります。時に、輸送主体は鉄道から自動車へ移行し、高速自動車道を中心とした交通体系の構築が主流になっていました。

こうして「いわき好間中核工業団地」は昭和60（1985）年1月に分譲区画の公募が開始され、平成5（1993）年に完了しました。

この間、昭和63（1988）年3月には常磐自動車道が開通。工業団地の建設と常磐自動車道のインター開設は、炭鉱閉山で疲弊が目立っていた地域に活性化と都市化を促し、好間町のまちづくりや市における位置付けを大きく変えることとなりました。

（いわき地域学會 小宅幸一）

※いわき市内の昔の写真をお持ちで提供いただける方は、広報広聴課（☎22-7402）へご連絡ください。

## 市長です こんにちは⑫

楽しい授業づくりへ前進！

いわき市長 内田 広之



文部科学省出身の私には、教育政策は「一丁目一番地」です。

不登校者数は増え続けていますが、その対策には授業づくりが肝心だと思っています。子どもの興味を引き出す工夫のある楽しい授業の展開です。

それでは、楽しい授業とはどうすればつくれるのか？ 1番の近道は、教科ごと単元ごとに広がる「楽しい授業の事例」を共有して

いくことです。

9月から文部科学省より、新たな教育長・服部樹理氏を招聘し、全国的視野で、かつ現場の教師一人一人にも寄り添い、教育委員会一丸となって授業改善に取り組んでいます。

学校ごとに「学校カルテ」も策定しています。分数や漢字でつまづく子が多い学校、基礎力は高いが作文が苦手な学校など、学校・学年ごとにそれぞれ特徴・課題があります。

今のネット社会では、こうした個別課題の成功事例を動画などで確認できます。また、書籍や研修でも良い事例を学べます。

大切なのは、まずは「学校カルテ」で足元を分析し、課題を明らかにして、ノウハウを他校や全国から学ぶ。そんなことが新教育長の下で始まっています。市教育委員会が1年間で全ての学校を回ってカルテをつくり、対応を進めています。